

下伊那地方フロラ新知見 II

浅野 一 男

Kazuo Asano: New plants found in Shimoina District, Nagano Prefecture II

8. オタカラコウ *Ligularia fischerii* (Ledeb.) Turcz. と カイタカラコウ *Ligularia kaialpina* Kitam.

日本を含み、シベリア東部からヒマラヤまでの東アジアに広布しているオタカラコウは、国内では東北地方南部から九州までの温帯を中心に、溪側の湿地に生えているものであるが、下伊那はその分布の空白域である。一方、オタカラコウの高山型とされるカイタカラコウは、その空白域を埋めるように分布している。私が検した下伊那産カイタカラコウの標本は、赤石山脈では三伏山2350m(浅野一男5420, TI), 同2400m(浅野5259, TI), 三伏峠2600m(浅野5352, 5755, TI), 豊口山(浅野1366, TI) 板屋岳2600m(浅野4678, TI), 百間洞, 聖平, 光岳(浅野138, TI), 光岳〜加加森山, 池口岳のものである。そして、今のところ池口岳が赤石山脈における南限産地のようである。木曾山脈では松川町上片桐区にある中岳頂上2330m(浅野10624, TI), 念丈岳, 飯田市上飯田黒川入(採集者不詳, 1931年7月18日の採品), 恵那山からのものである。

翻ってオタカラコウの産地については、『長野県植物総目録22』(杉本順一1965)には「木曾山脈経岳より愛知県界まで」と、『下伊那の植物中巻』(下伊那教育会生物委員会編1973)には「根羽村」と記載されている。しかし、残念なことに根羽村の記載の証拠となる標本は確認できなかった。また、下伊那に住む植物愛好家所蔵の池口岳, 聖平, 木曾駒ヶ岳, 念丈岳産のオタカラコウの標本, 三伏峠産のトウゲブキの標本, 三伏峠道と上飯田黒川入産のタカラコウの標本は、いずれもカイタカラコウであった。このようなわけで、下伊那におけるオタカラコウの分布状態について、再調査するのを感じ、改めて調査してみた。その結果、村内各地にオタカラコウが存在する愛知県北設楽郡津具村に隣接する根羽村の南半部、すなわち標高650~900mの間に位置する新井, 田島, 桧原, 離山, 杣路峠だけに産すること、個体数はかなり多いことがわかった。このように下伊那ではオタカラコウとカイタカラコウは水平

的にも垂直的にも住み分けている上、オタカラコウは溪側の湿地、カイタカラコウは高茎草原と、生活の場まで異にしているのである。

9. エンシュウツリフネ *Impatiens hypophylla* Makino var. *microhypophylla* (Nakai) Hara
静岡県磐田郡水窪町で最初に発見された後、三信国境に聳える茶臼山(標高1415.4m)の愛知県側でも確認された。『津具村の植物』(大原準之助1981)によると、津具村には生育地が点在しているようである。下伊那の産地は、『下伊那の植物中巻』(1973)に「売木, 茶臼山」が報告されている。しかし、証拠の標本は所在がわからず、確認できていない。根羽村から委嘱された『根羽村誌』の植物の章執筆のため、1987年9月13日茶臼山の根羽村側斜面に入り群落調査を行ったところ、茶臼山湖に近い標高1230m付近のサワグルミ林(オヒョウ・タイミンガサモドキ群集)の中で、数は少ないが散生しているのを見た。津具村では茶臼山から天狗棚まで分布しているようなので、根羽村でも天狗棚と尾根続きである大又入地籍までの県境地帯には、エンシュウツリフネが分布している可能性がある。

10. タカクマヒキオコシ *Rabdosia shikokiana* (Makino) Hara var. *intermedia* (Kudo) Hara

西日本に分布の中心があって、東は福島県まで達しているタカクマヒキオコシの、下伊那における分布は未知であった。下伊那と境を接する愛知県津具村や豊根村には多いので、茶臼山を中心を気をつけて探していたところ、1987年9月13日前述エンシュウツリフネと同じ林内に多数生えていることを知った。さらに精査したところ茶臼山の売木村側斜面にもあることがわかった。ご教示をいただいた信州大学の清水建美教授に心からお礼申し上げます。

なお、『下伊那の植物中巻』(1973)に茶臼山に産すると記されているイヌヤマハッカを、私はまだ同所をはじめ下伊那で見ていない。

11. ヒロハハナヤスリ *Ophioglossum vulgatum* L.
ヒロハハナヤスリの下伊那の産地は、『長野県の

シダ植物』(大塚孝一1987)をはじめ前記『下伊那の植物中巻』『長野県植物総目録』に記載がなく未知であったが、1987年6月21日根羽村茶臼山の茶臼山湖西方の林内陰湿地(標高1310m)に群生しているのを発見した。

12. ダンドタムラソウ *Salvia lutescens* Koidz. var. *stolonifera* Murata

愛知県段戸山で最初に発見された後、奥三河、南信、東濃に分布していることがわかった、この地域の特産種である。下伊那の産地としては、『長野県植物総目録完』(杉本順一1966)に「根羽、平岡」が、『下伊那の植物中巻』(1973)に「売木茶臼山東尾根軒川源流地域、智里、御坂峠、飯田 大平峠」が記されている。後者の記事は私のノートを基に、下伊那教育会生物委員会の委員が書いたものであるが、いささか正確を欠いているので正しておきたい。上記産地の中で「智里、御坂峠」の二か所は、実際は智里村(現、阿智村智里区)御坂峠(採取者不詳、1933年8月10日の採品による)であり、「飯田 大平峠」は飯田市大平(採取者不詳、1928年6月20日の採品による)である。最近の調査で新たに次の産地がわかった。根羽村茶臼山の茶臼山湖に近い標高1210m地点の林内(1987年8月22日)、本誌19号で報じた飯田市大平峠のミズバショウ生育地から直線距離で100mばかり離れた林内(標高1300m)を走る飯田一幸助線道路の路肩(1986年8月2日)、木曽郡南木曽町を飯田市に向かって通る国道256号線がもう少しで清内路峠頂上(1192m)に達するという標高1180mの地点(1976年7月29日)である。なお私は平岡(天龍村平岡区)の産地をまだ確認していない。

13. フトボナギナタコウジュ *Elsholtzia argyi* Lévl. var. *nipponica* (Ohwi) Murata

本州では関東西部から近畿までに分布し、愛知県では津具村や豊根村など奥三河の山地にも産する。下伊那では『長野県の植物』(横内齋1971)に大鹿村大河原、『下伊那の植物中巻』(1973)に天龍村平岡区中井侍が記録されている。しかし、私が知る確たる生育地は、根羽村と津具村の境にかかる国界橋の上流100mほどの、根羽村側斜面(標高870m)に立つ10年生位のヒノキ疎林内のみである(1986年9月30日に確認した)。

14. シロモジ *Lindera triloba* (Sieb. et Zucc.) Bl.

西日本に分布の中心があり、太平洋側を東進して静岡県まで達しているシロモジの、下伊那での分布

は、阿南町且開区新野峠(1060m)を東限、平谷村(南半部)を北限として、売木村(南半部)、根羽村にまたがる西南山地に限られると、私は考えていた。しかるに、1976年7月27日、平谷村から北へ直線距離で20km位離れた、清内路村と飯田市山本区の境にある梨子野峠(1172m)から高鳥屋山(1397.7m)に向う道が、峠の横にある最初のピークを越えるあたりのカラマツ林内に生えているのを見た。その森林の種組成は次のようである(数字は被度、群度の順)。

標高1200m, 方位S80°W, 傾斜25°。高木層: 優占種カラマツ, 高さ10m, 植被率100%, 5.5カラマツ, 1.1ホオノキ, 1.1クマシデ, 1.1ウラジロモミ。低木層: シロモジ, 1.5~3m, 70%, 3.2シロモジ, 2.2タンナサワフタギ, 2.1ダンコウバイ, + ツクバネ, + ツリバナ, 1.1ムラサキシキブ, 2.1ヤマウルシ, 1.1ツノハシバミ, 1.1ミズナラ, 1.1クロモジ, + ハナイカダ, + ウリハダカエデ, + サンショウ, 1.1トウゴクミツバツツジ, 1.1コハウチワカエデ, + ナンキンナナカマド, 2.1アオハダ, + コゴメウツギ, + ホオノキ, + イワガラミ, 1.1ヤマツツジ, + コナラ, + コバノトネリコ, + ニシキウツギ, + ヤマウコギ, + ヒロハツリバナ, 1.2スギ, + オオカメノキ, + マツブサ, + リョウブ。草本層: シロヨメナ, 0.4m, 50%, 2.1シロヨメナ, 1.2タガネソウ, 2.2ソバナ, + サワシバ, 1.1チゴユリ, + アカショウマ, + タチツボスミレ, + コアジサイ, + バイカツツジ, + ウリカエデ, + コバノガマズミ, + ヤマジノホトトギス, + オヤマボクチ, 1.1ヤマツツジ, + チゴユリ, + ヘビノネゴザ, + ミヤマヤブタバコ, + サワダツ。

15. クガイソウ *Veronicastrum sibiricum* (L.) Pennell ssp. *japonicum* (Nakai) Yamazaki
経ヶ岳から摺古木山までの木曽山脈主部では普通に見られるクガイソウは、最南部恵那山以南の地では少なく、今までに検し得た標本は、浪合村蛇峠山治部坂洞(浅野9605, TI), 同村大川入山恩田大川入川1400~1600m(浅野20853, TI), 浪合村(下平潔1933年8月16日)、平谷村親~平谷峠1100m(浅野3568, TI), 同村柳川谷産のものである。

1986年6月14日、平谷村餅小屋地籍の標高1000m附近を通る国道の路肩で、枝分れした花序をつけたクガイソウを一株見つけた。周囲を探したが他には

見当らなかったで、証拠のため地上5 cm位のところで切って根を残し、地上部だけを採取して標本にした。それでも気掛りだったので、1987年夏根羽村ひ訪れるたびに寄って探してみたが、ついに見つけることができなかった。平谷村より南では自生地が知られておらず、餅小屋が木曾山脈側で最南の地と目されただけに惜まれ、かつ慚愧にたえない。

16. エンレイソウ *Trillium smallii* Maxim.

1987年5月31日、大鹿村塩川上流の広河原と三伏峠登山道取りつき口との間の塩川右岸の林内に、かなりの数のエンレイソウが、シロバナエンレイソウと混じって生えていた。ここが下伊那で私が知る確たる唯一の産地である。

17. レンブクソウ *Adoxa moschatellina* L.

レンブクソウは下伊那では極めて稀で、従来松川町生田区福与にある嶺岳寺裏から採集された標本（採取者不明、1932年4月30日）を知るのみであった。ところが、1980年5月4日に大鹿村釜沢で、1987年5月31日に前項エンレイソウの産地より少し上流で生育地を発見した。前者では林縁に、後者では北斜面の陰湿な林床と苔生した岩上に生えていた。ともに生育地の面積は狭いが、個体数は多かった。

18. イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim.

1986年11月22日、阿南町富草区鴨目にある鴨目集会所近くの道路脇の林内に、赤い実をたわわにつけたイイギリが一本立っているのを見た。これでイイギリは、前報の産地天龍村坂部から直線で14kmほど内陸部に向かって北上していることになる。

〔植物ニュース〕117. ワタムキアザミ *Cirsium tashiroi* Kitamura

本種は、伊勢湾周辺の山地に分布し長野県では木曾・下伊那にある。このたび、上伊那郡辰野町で見出しした。周囲1 ha以上で相当数の個体があった。今井建樹氏に見ていただいたところ、ワタムキアザミにまちがいないとのことであった。分布の北限になるのだろうか。ワタムキアザミとヒダアザミは、根葉や茎葉の状態のちがいで区分している。1987年10月8日 上伊那郡辰野町大字伊那富。（元島清人）

118. カライトソウ *Sanguisorba kakusanensis* Makino

これまでに県内では、北アルプス（白馬～針ノ木等）に知られていたが、新たに戸隠山で発見した。

北アルプスでは群落が見事であるが、戸隠山では個体数が少なく、生えている場所は岸壁直下の湿潤な地である。他の日本海地域の山岳にもあるだろう

19. ウスギオウレン *Coptis lutescens* Tamura

『伊那谷の植物』（1986）に私はウスギオウレンとコセリバオウレンを載せた。前者は阿南町且開区大村に鎮まる諏訪社の境内で、後者は飯田市伊賀良区北方にある社の森で撮影した写真を採用した。その後清水建美（1987）の記事を知って調査しなおしたところ、後者もまたウスギオウレンであることが確められたので、ここに訂正させていただく。

20. ジュンサイ *Brasenia schreberi* J. F. Gmel.

下伊那では松川町大島区名子にある溜池と、阿南町且開区大村殿林にある小さな池の二か所が産地として知られていた。そのうち後者が現在進行中の国道151号線付け換え工事で埋め立てられてしまっているのを、1987年3月31日の調査行で知った。惜しいことをしたものである。

21. ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

下伊那で報ぜられているのはただ一か所、飯田市山本区竹佐である（『下伊那の植物中巻』1973）。そこは旧飯田市立山本中学校の下谷間に設けられた溜池であったが、1986年8月22日再調査に訪れたところ、旧国鉄時代に進められた下呂線（飯田市～岐阜県下呂町）の建設工事で埋められて溜池がなくなっていた。そのため生品では同所のものを検討することができなくなった。

本報で扱った新産地については、証拠標本を近く信州大学教養部生物学教室標本庫（SHIN）に納めさせていただく所存である。

か。1982, 7, 20, および1983, 8, 31 上水内郡戸隠村。（元島清人）

119. オオアワガエリ *Phleum pratense* L.

1967年9月2日に木曾郡日義村幅で採集したオオアワガエリは立ったまま種子が発芽し4～7 mmにのびている。こんなのが数株あったと記憶している。文献には見あたらないが各地にありそうに思う。

（奥原弘人）

120. ベニバナイチヤクソウ（白花） *Pyrola incarnata* Fischer

ベニバナイチヤクソウの純白花。1987年6月8日諏訪郡富士見町の入笠山登山口。ベニバナイチヤクソウの群生する中に2花茎が見られた。この白花品についての報告がないようであるので、和名はユキベニバナイチヤクソウとしたい。（今井建樹）